

加賀野菜

加賀太きゅうり

栽培マニュアル



【加賀太きゅうり】

科名 ウリ科

主な産地 安原地区

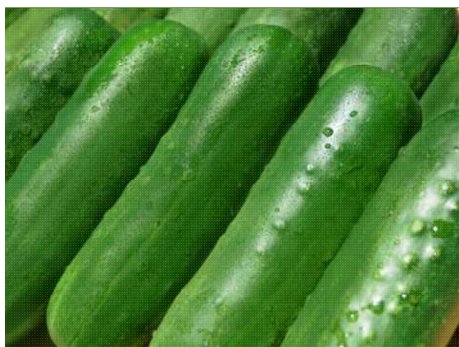


栽培の歴史

昭和初期、金沢市久安の篤農家が福島県の農家から種子を譲り受け、久安地区で栽培されていた加賀節成きゅうりと自然交雑したのが起源である。年月を経て、果径は三角形から丸みを帯びた形に、果色は黄色から濃緑色へと変化し、昭和27年頃に現在の加賀太きゅうりの姿となった。産地は、昭和45年頃より砂丘地の安原地区に移動し、栽培方法も露地栽培から施設栽培に変わっていった。

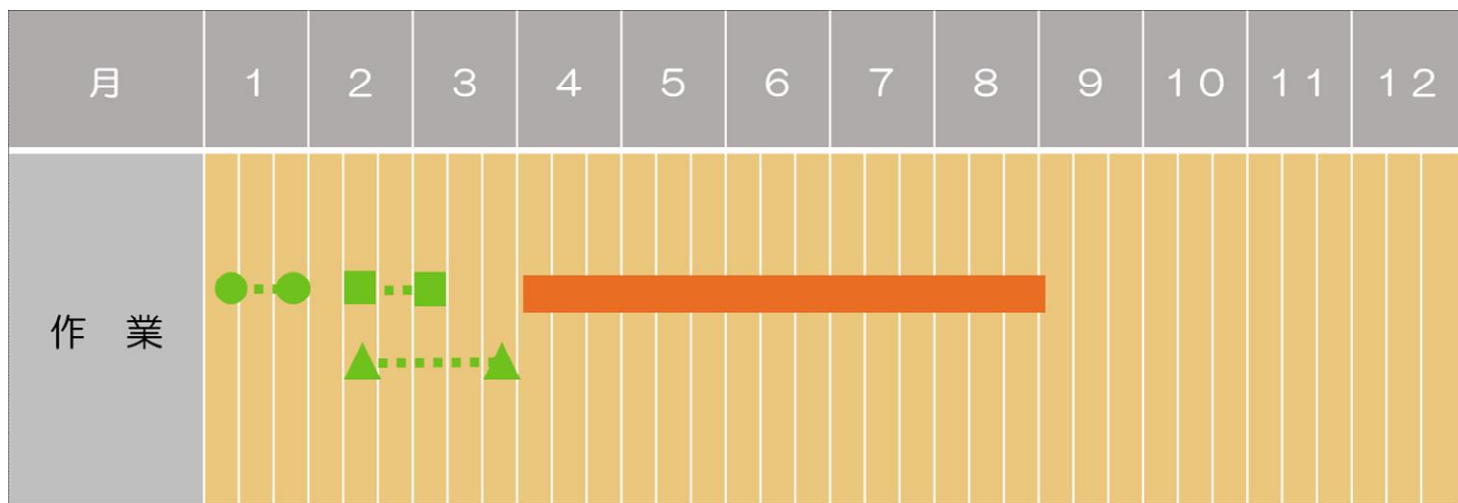
特性等

果長22〜27cm、果径6〜7cmの太さが特徴の白いぼ太きゅうりである。果皮は濃緑色であり、1果重が500〜620gにもなる。節成りにはならず、株当たりの収穫数は、2本仕立てで20数果である。果肉が緻密で柔らかく、日持ちが良い。



栽培カレンダー

● : 播種 ■ : 定植 ▲ : トンネル被覆 ■ : 収穫



※ 2月末までに定植する作型の場合は、定植〜3月末まで暖房機や温床線で加温を行う。

1 播種

【播種時期】

- ・育苗期間は、40日程度を要する。
- ・定植予定日から遡り、播種日を決定する。

【播種床の準備】

- ・播種床に温床線（坪あたり300wが目安）を張り、その上に12cm程度の厚さで床土を敷き均す。または、床土5cm程度の播種床の上に土を充填した播種パレットを並べる方法でもよい。
- ・水分を十分に含ませ、播種日までに地温28度程度まで加温しておく。

【播種】

- ・播種床に印をつけて種子を落としていく（穂木は播種間隔6cm×3cm、台木は播種間隔9cm×3cmが目安）。
- ・台木（かぼちゃ）は穂木より1〜2日早く播種し、穂木よりも大きく成長させ、接ぎ木後の苗のバランスを良くする。
- ・発芽不良の種子や、接ぎ木後に活着不良となる苗が発生するため、台木、穂木とも多めに播種する。
- ・播種後、砂で1cm程度の覆土を行い、しっかりと灌水する。
- ・覆土後、保温と保湿のために新聞紙をかけ、その上から更に灌水して湿らせる。
- ・最後に、保温のために播種床にトンネル被覆を行う。
- ・乾燥した場合は地温程度に温めた水で灌水し、発芽したら新聞紙をはずす。

【温度管理等】

- ・発芽までは地温28度を維持するよう管理する。発芽直後は日中の気温を25度とし、生育に合わせて徐々に温度を下げていき苗を馴化させる。夜間は最低気温15度を確保する。
- ・苗の徒長を防ぐため、十分に日光に当て、過度な灌水は控え、3〜4日間隔を目安に午前中に灌水する。



覆土後、しっかりと灌水する



種子の位置がずれないように、種子を軽く抑える



灌水後、速やかにトンネル被覆を行う



覆土は均一に行う

2 接ぎ木

【接ぎ木までの準備】

- ・3.5号鉢に土を詰めて灌水した後、鉢土の地温で28度程度に加熱しておく。
- ・病害を防ぐため、台木、穂木とも接ぎ木前日までに殺菌剤を散布しておく。
- ・接ぎ木まで十分に日光に当てておき、養分を蓄積させる。曇雨天が続く場合は接ぎ木を遅らせることも検討する。
- ・台木は接ぎ木までに本葉を除去（芽かき）しておく。

【接ぎ木】

- ・台木の播種から10日後（穂木の本葉が米粒大の頃）を目安に接ぎ木を行う。
- ・太きゅうりの接ぎ木には様々な手法が用いられるが、ここでは「挿し接ぎ」及び「割り接ぎ」について紹介する。



穂木（接ぎ木時）



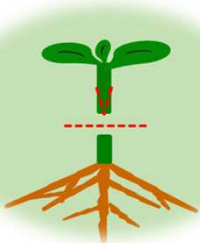
台木（接ぎ木時）



接ぎ木の様子

<挿し接ぎ>

【穂木】

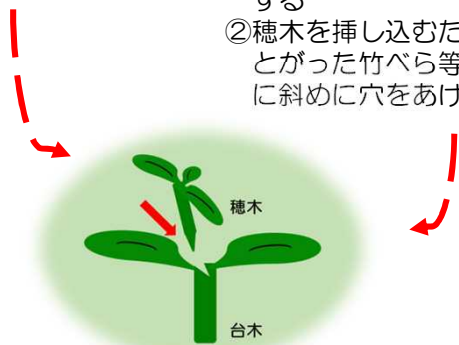


- ① 茎を切断する
- ② 断面をカミソリでくさび型に削ぐ

【台木】



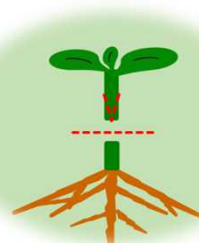
- ① 接ぎ木までに本葉を除去しておき、茎を切断する
- ② 穂木を挿し込むため、とがった竹べら等で茎に斜めに穴をあける



台木に対して子葉を交差させる方向で、台木にあけた穴に穂木を挿し込む

<割り接ぎ>

【穂木】



- ① 茎を切断する
- ② 断面をカミソリでくさび型に削ぐ

【台木】



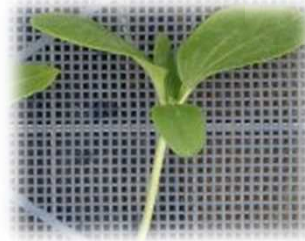
- ① 接ぎ木までに本葉を除去しておき、茎を切断する
- ② カミソリで茎の手前半分に1.5cm程度の切り込みを入れる



台木の切り込みに穂木を挿し込み、接合部を接木クリップで固定する



【割り接ぎ】
※台木を割った方向から
接木クリップでとめる



【挿し接ぎ】

接ぎ木後の管理

【接ぎ木後当日〜2日目】

- ・接ぎ木苗に触れない程度の高さに有孔ポリフィルム（内張）を張る。その上にトンネルを張り、遮光資材で被覆し、昼夜気温28度を維持するよう管理する。

- ・接ぎ木後2日間は、密閉管理とする。

【接ぎ木後3日目〜6日目】

- ・有孔ポリフィルムを外し、朝夕の弱い光を徐々に当て、換気量を少しずつ増やす。日差しが強い時間帯は、遮光資材を利用する。

【接ぎ木後7日目以降】

- ・苗床の夜間気温を10度前後まで徐々に下げながら馴化させ、通常の育苗管理に移行する。馴化が完了していないものは別管理とする。

- ・割り接ぎの場合は活着後（接ぎ木後12日前後）にクリップを外す。徒長を防ぐため、接ぎ木後20日目を目安に、葉が重ならないようにポット同士の間隔を広げ、通風・採光を良くする（鉢ずらし）。

接ぎ木のポイント

台木の中心にある空洞部分に穂木の先端が入ると、そこから自根が下りるので注意する

3 摘芯

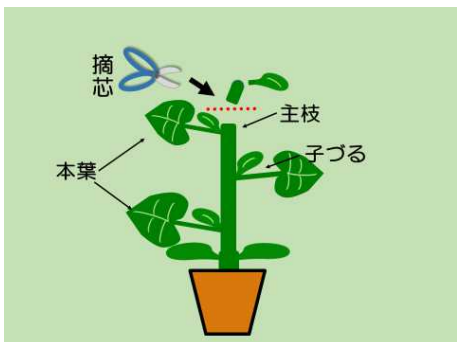
・育苗期間中に、3節目を残して摘芯し、子づるを伸ばす。



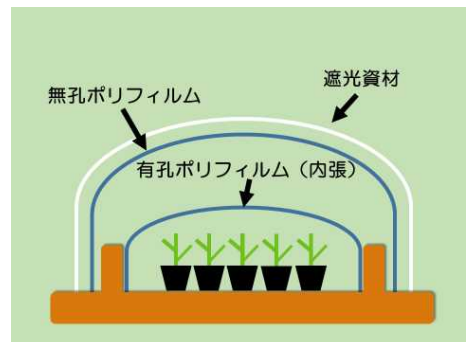
摘芯の様子



接ぎ木後、3.5号鉢に植える



摘芯のイメージ



接ぎ木後の管理のイメージ

4 定植

【定植までの準備】

- ・定植の1か月前までに堆肥、7〜10日前までに基肥をハウス内に全面施用し、耕起する。(表1参照)
- ・1条あたり畝幅135cm(うち40cmは通路)、株間80cmを基本とする
- ・定植1週間前から透明マルチや灌水パイプ、水封マルチを設置しておく。

- ・定植前日までにトンネルを設置し、最低地温15度を確保する。
- ・ハウス内を保温するため、ハウスサイドや天井に被覆資材を設置し、誘引前までトンネルと合わせて二重被覆を行う。
- ・ポットよりもひと回り大きめの穴を掘り、殺虫剤・殺菌剤(粒剤)を施用する。

【定植】

- ・播種から40日後を目安に、定植を行う。
- ・定植は温暖な日の午前中に行い、トンネル内の保温に努める。
- ・ポットの表土が畝の表土と同じ高さになるよう植え付け、十分に灌水した後、トンネル被覆を行う。

【温度管理】

- ・トンネルの開閉やハウスサイドの巻き上げなどにより温度を調節する。(表2参照)



トンネル内の保温のため、水を充填した水封マルチを設置する



定植前日までにトンネルを設置する

定植のポイント

深植えすると根の呼吸が妨げられるため、鉢土と地表面の高さを合わせる

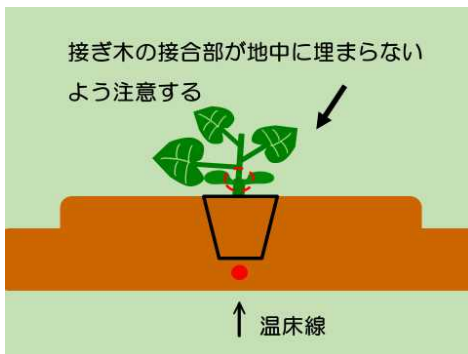


表1 施肥設計例(砂土)

(kg/10a)

肥料名	総量	基肥	追肥	成分量
堆肥	2,000~4,000	定植の1か月前までに施用		
IB化成S1号	170	60	30×1、40×2※1	N :60.2 P ₂ O ₅ :65.4 K ₂ O :59.6
ゆっくりくん1号	100	100		
硝酸入りS604	30	30		
有機化成特A801	330		30×11※2	
過磷酸石灰	40	40		
硫酸マグネシウム	20	20		

- ※1 定植から30日後、60日後、90日後を目安に施用する
- ※2 1〜2果が着果した頃から7〜10日間隔を目安に施用する
ただし、草勢、果実の肥大状況により施肥量を加減する

表2 生育適温等

区分		生育適温	限界温度
地温		18~23°C	最低15°C
気温	日中	23~28°C	最高35°C
	夜間	12~15°C	最低8°C

【灌水】
 ・ハウス内を保温すると土壌が乾燥しやすいため、灌水回数を多めに行う。



定植後3~4日間は、株元灌水を行い、活着を促進させる



定植穴のそばに苗を並べておく



定植後、二重被覆により保温に努める



定植後の様子



暖房機

管理のポイント

- ・ 2月末までに定植する作型では、定植~3月末まで暖房機や温床線を利用して地温を確保し、生育を促す
- ・ 温床線の設置は、テラーで溝を作り、定植箇所の下部に1本ずつ温床線を設置後、溝を埋め戻し、土を均す(24w/坪、設定温度は15度以上)



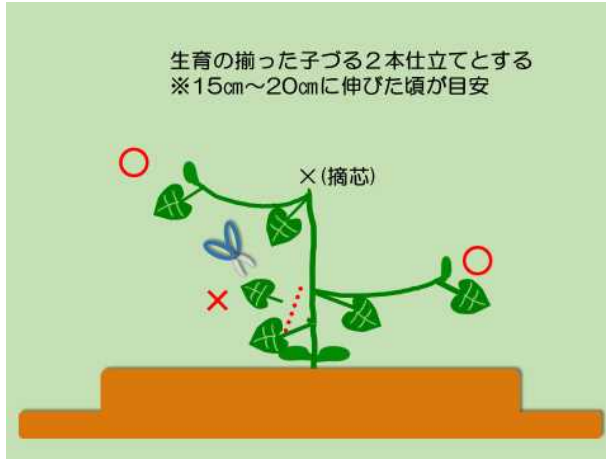
ハウス内が均一に暖まるよう、エアダクトを設置する

表3 暖房機の夜間設定温度

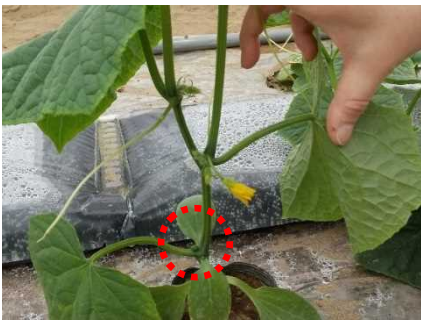
定植~本葉4枚	11℃以上
本葉5枚~トンネル除去	11℃
除去後~3月末まで	10℃

5 仕立て

- ・定植から10日後を目安に、1株の中で生育の揃った子づる2本を残し、弱勢枝を除去する。
- ・不要な巻きひげや花芽を適宜除去する。



整枝のイメージ



整枝後



弱勢枝を除去



6 誘引

- ・定植から約1か月後、最低外気温が10度以上に安定したらトンネルを除去する。
- ・誘引前日までに番線に誘引紐をつるして準備しておく、当日2本の子づるに結びつけて吊り上げ固定する。
- ・生育に応じて、子づるの摘芯まで適宜巻き付けて固定する。



事前に番線に誘引紐を吊るしておく



トンネル除去後



誘引後

7 管理

【灌水】

- ・定植から収穫前までは、晴れた日は1日1回、午前中に灌水する。
- ・収穫開始後は、乾燥する場合、午後にも灌水を行う。
- ・肥料の成分を溶出させるため、灌水パイプを利用し、通路まで十分に灌水することが望ましい。

【追肥】

- ・表1の施肥設計のほか、収穫が始まった頃から葉面散布剤や液肥を併用し、草勢維持に努める。

【換気】

- ・ハウス内気温は午前中25℃～28度、午後23℃～24度、夜間は12℃～15度を維持するよう管理する。
- ・ハウス内が過湿にならないよう換気を行い、病害の発生を抑制する。

【高温対策】

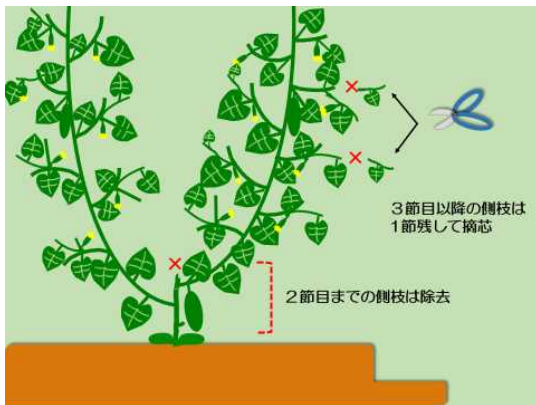
- ・ハウス内の気温が30度を超えると、徒長や葉の老化、奇形果や白皮果の発生を助長するため注意する。
- ・高温期は、ハウスの妻面やハウスサイドの換気、遮光資材の被覆やハウスビニールへの石灰資材の散布等により、温度上昇を抑制する。
- ・日中の高温時に萎れるようであれば、葉水等で対処する。



高温期は遮光資材を利用し温度上昇を抑制する

追肥のポイント

- ・奇形果の発生や成り疲れを防ぐため、早めの追肥を心掛ける
- ・窒素成分が極端に多くならないよう、1回の追肥量を守る
- ・果実の内部褐変症状を防ぐため、農薬散布時にカルシウム剤を混用する



整枝イメージ図

【整枝】

- ・子づるは15～20節で摘芯する。2節目までの側枝は早めに除去し、3節目以降の側枝は1節残して早めに摘芯する。
- ・下位節に調整果を残すことで樹勢を調節し、栄養生長と生殖生長のバランスを保つ。ただし、成り疲れを防ぐため、残した調整果はMサイズ(500～620g)を超える前に収穫する。
- ・草勢を見ながら5節に1果の割合になるよう摘果する。
- ・病気の葉や黄色く老化した葉、込み合った葉などを除去し、若い葉や生長点に光を当てる。また、子づるの摘芯直下の葉や、弱い側枝は早めに摘除する。ただし、摘葉しすぎると樹勢が落ちるため、1回の摘葉は1株当たり2～3枚を限度とする。
- ・草勢を維持するため、株上部の側枝(生長点)は摘芯せずに伸ばすが、番線の上で側枝が盛り上がりすぎないように適宜整枝する。収穫終期の圃場は、伸びている側枝の先端は全摘芯し、果実肥大を促進させる。
- ・不要な巻きひげや花芽を適宜除去する。

摘果のポイント

奇形果は早めに除去する



曲がり果



先細り果

8 収穫・調整・出荷

- ・朝や夕方 of 涼しい時間帯での適期収穫に努める。
- ・収穫後は、速やかに日の当たらない室内へ運び、等階級ごとに仕分けし、箱詰めする。



効率よく収穫するため、台車を利用する



収穫後は速やかに日の当たらない室内へ運び



箱詰め後

9 病害虫防除

【防除】

- ・生育状況等をよく観察し、病害虫の早期発見と初期防除に努める。
 - ・病害虫は、年によって発生程度に差はあるが、繰り返し発生するので、発生時期や防除実績を日誌等に記録し、翌年以降の防除に活かす。
 - ・農薬は「野菜類」または「きゅうり」の登録のあるものを使用する。
 - ・農薬の使用にあたっては、最新情報を入手するとともに、ラベルの記載内容を必ず確認して使用する。
 - ・農薬の最新情報は、農林水産省「農薬コーナー」を参照する。
- URL: <http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>



花落ちは除去しておく

収穫時のポイント

- ・収穫適期は、長さ22~27cm (重さ500~620g)
- ・収穫量の少ない日は、同時に整枝や摘果作業を行うと良い



【アザミウマ】

- 開花期の雌花が加害されると、曲がり果などの原因になる



【アブラムシ】

- 吸汁により、葉や生長点が萎縮する
- モザイク病のウイルスを伝搬する



【うどんこ病】

- はじめ下位葉にうどんの粉をかけたような病斑ができ、次第に株全体に広がる



【べと病】

- 下位葉に葉脈で囲まれた黄色の角形の病斑ができ、上位葉へと拡大する
- 湿度が高い場合には、葉裏に濃灰色のカビが生じる



【つる枯れ病】

- 茎の地際部が灰色となり、その表面に小さな黒い粒が多数できる
- 多湿条件で発生しやすく、被害程度が激しいと地上部は萎れて枯れる



【灰色かび病】

- 幼果期に着花部から感染し、果実が淡褐色となり腐敗する
- 多湿条件下で腐敗部に灰色のカビが生じ、胞子を飛散して伝染する

加賀野菜「加賀太きゅうり」栽培マニュアル
発行 令和3年3月
発行元 金沢市
監修 松本 惲(農の匠)
編集 金沢市農業センター
金沢市下安原町東1471
電話 (076)249-2744
FAX (076)249-4470

